

法人名：

株式会社 男鹿水族館

設立年月日 平成15年4月16日

1 法人の概要

代表者職氏名	代表取締役 小西 司	資本金	100,000千円	県出資等額及び比率	51,000千円	(51.0%)	所管部課名	観光文化スポーツ部観光戦略課					
設立目的	魚、海獣等との触れ合いを通じた学習の機会を提供し、並びに県民の自然保護及び地球環境保全についての理解を深めるとともに、観光レクリエーション活動のための利便の増進を図る。												
事業概要	水族館の運営												
関連法令、県計画	なし												
役員数 (R7.7.1現在)	理事		監査役		評議員		計		職員数 (R7.4.1現在)	正職員	出向職員	臨時・嘱託	計
	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤		19		3	22
	1	4		1				5		役員と職員を兼ねている者の人数は、役員と職員の両方に計上し、職員数には括弧（内数）で表示。			

2 法人の行動計画(令和4～7年度)

県関与のあり方	縮小・廃止	経営状況	概ね安定	取組の方向性	・内部留保の積み増し
目標	直近(H28～R元年度)の実績等をもとに試算した経営安定ラインである有料来館者数の確保を目指す。 【目標】有料来館者数R4～7年度：165千人/年度				
取組	生態の繁殖、科学的知見の積上げなどに関する情報発信強化(館内展示の充実) 【目標】解説パネル等の更新を年間1エリア以上実施 教育利用(校外学習・修学旅行等)の安定的な獲得及び福島以南等からの利用増加策の実施(R4年度に整備予定の「教育利用等誘客促進重点エリア」を活用し、県内含め福島以南等からの教育利用を積極的に誘致する。) 【目標】教育利用人数について、毎年5,000人を確保する。 SNS、館内サイン、ホームページなどによる情報発信強化 【目標】アンケートにおける「SNS、ホームページによる来館動機」10%増 男鹿半島観光、地元飲食店や小売店などとの連携強化 新型コロナウイルス感染症のガイドラインに沿った各種催事などの再開 【目標】前年度比で催事等を1回以上増加実施				

3 財務

損益計算書

(単位:千円)

区 分	令和5年度	令和6年度
売上高	360,151	380,481
売上原価	74,173	82,259
売上総利益	285,978	298,222
販売費及び一般管理費	304,235	306,649
人件費(売上原価含む)	122,321	124,554
営業利益(損失)	18,257	8,427
営業外収益	10,832	9,995
営業外費用	144	454
経常利益(損失)	7,569	1,114
特別利益		
特別損失		1
法人税、住民税・事業税	658	210
当期純利益(損失)	6,911	903

貸借対照表

(単位:千円)

区 分	令和5年度	令和6年度
流動資産	263,805	245,163
固定資産	8,956	11,480
資産計	272,761	256,643
流動負債	53,097	36,076
短期借入金		
固定負債		
長期借入金		
負債計	53,097	36,076
資本金	100,000	100,000
利益剰余金等	119,664	120,567
純資産計	219,664	220,567
負債・純資産計	272,761	256,643

端数処理の関係で合計が一致しない場合がある。

<主な経営指標>

項 目	令和5年度	令和6年度	増減
経常収支比率 (経常収益÷経常費用)	98.0%	100.3%	+2.3
流動比率 (流動資産÷流動負債)	496.8%	679.6%	+182.7
自己資本比率 (純資産計÷負債・純資産計)	80.5%	85.9%	+5.4
有利子負債比率 (有利子負債÷純資産計)			

端数処理の関係で増減が一致しないことがある。

<退職給与引当状況(単位:千円)>

要支給額	引当額	引当率(%)
186	0	0.0%

中小企業退職共済制度へ加入している。

県の財政的関与の状況(事業費補助・委託を除く)

(単位:千円)

区 分	令和5年度	令和6年度	支出目的等
年間支出			
年度末残高			

法人名：

株式会社 男鹿水族館

## 自己評価

1 行動計画における目標及び取組の達成状況			2 経営状況		
【令和6年度実績】 有料来館者数：143,872人（前年度：149,020人、目標：165,000人） 解説パネル等の更新：ひれあし's館の展示パネル更新（前年度：1エリア、目標：1エリア以上） 教育利用者数：2,818人（主に県内利用で一部北海道、福島以南は大阪から116人） （前年度：2,600人、計画：5,000人） アンケートにおける「SNS、ホームページによる来館動機」：92.9%増 （前年度：7.4%増、目標：10%増） 催事開催回数：前年度比9回増（20周年企画展、真珠取り出し体験など複数の企画を実施。） （前年度：7回増、目標：1回以上増）			【令和6年度実績】 売上高：380,481千円（前年度：360,151千円） 売上原価：82,259千円（前年度：74,179千円） 販売費及び一般管理費：306,649千円（前年度：304,235千円） 経常利益：1,114千円（前年度：7,569千円） 当期純利益：903千円（前年度：6,911千円）		
【自己評価】		評価	C	【自己評価】	
7月の開館20周年に合わせ、記念企画の実施、宣伝展開、プレスリリースによるパブリシティを強化するなど誘客促進に努めたが、集客を見込んでいたゴールデンウィークにおいて平日を挟んだ曜日配列のため連続した休みが取りづらい状況で集客に苦戦した。また北海道からの教育旅行は交通費等旅行代金の値上がりにより行程が3泊から2泊に変更となったため当館への立ち寄りが難しくなり有料来館者数及び教育利用者数の目標を達成することができなかった。 一方、校外学習を含めた教育利用は2,818人となり、前年比108.4%と回復傾向にある。また、福島以南は大阪から116人の教育利用があり、誘致活動の成果が出たものと認識している。 解説パネル等の更新についてはひれあし's館のパネル更新を行い実寸大イラストを用い大きさを体感できるようにした他、日本で見られる野生の鰐脚類の情報などを掲載した。 20周年企画の告知等、SNSやホームページにおける情報発信を強化したことにより、利用者アンケートにおける「SNS、ホームページによる来館動機」が増加した。 催事については前年実施のものは継続し、20周年企画など新規での取組を増やした。館内だけでなく観光協会等と連携し仙台うみの杜水族館でのイベントを実施し男鹿半島全域のPRを行った。 今後は、有料来館者数等の目標達成に向けて、各種イベントの充実やSNSでの積極的な情報発信により来場者を増やしていきたい。			A	有料来館者数は減少したものの、新規スタッフ監修グッズ、生き物をモチーフにしたタオルなど単価の高いオリジナル商品の販売強化や、オンラインショップの浸透により、収益の柱である売店の売上が伸び、売上高は前年度を上回る380,481千円となった。 レストラン運営においては、販売価格の値上げによる単価アップを図ったほか、男鹿海洋高校と連携したメニューが年度で約5,000食を販売する主力メニューに成長し、話題性の提供や地元食材の活用に貢献するとともに、利用者の増につながった。 水道光熱費、飼料費、広告宣伝費など経費の削減に努めた。	

## 所管課評価

1 行動計画における目標及び取組の達成状況			2 経営状況		
【所管課評価】 開館20周年の記念企画の実施や展示パネル更新、情報発信強化などの各種取組に努め、利用者満足度向上を図っている。 昨年度と比べ、教育利用は増加が見られたものの、入館者全体数は減少傾向にあり、有料入館者数は5,148人減少していることから、DMOや地元事業者等と連携しながら、利用者の増加に努めていただきたい。			評価	C	【所管課評価】 営業利益は赤字ではあるものの、売店やレストランの売上が増加したことなどにより当期純利益は黒字となっており、累積債務もなく経営は概ね安定している。 水族館という事業の性質上、引き続き光熱水費等の高止まりの影響が懸念されることから、今後も適切に対応していく必要がある。

## 委員会評価

総合評価	法人全体の取組・運営状況に関するコメント
B	オリジナル商品の販売強化や男鹿海洋高校との地域連携事業の実施等により、当期純利益が黒字に転換した点は評価できる。 一方で、有料来館者数は前年度を下回っており、教育利用者数も目標の半分程度にとどまっていることから、各種イベントの開催やSNSでの積極的な情報発信により集客を図る必要がある。

【委員からの提言】
水族館が所在する男鹿市については、洋上風力発電や宿泊施設の設置など、新たなまちづくりが進められていることから、これらの関連企業との連携による誘客促進等の動きについても期待したい。 教育利用者数に関しては、リピーター確保の観点からも県内外の学校に対する積極的な働きかけが必要と考える。 ターゲットの選定、ニーズ把握、他施設との差別化などのマーケティング戦略の見直しが必要と考える。

## 委員会評価を踏まえた対応方針

法人の対応方針	所管課の対応方針
○企画展や各種イベントの充実を図るとともに、飼育員体験やバックヤード体験といった体験プログラムの実施により、新たなターゲットの取り込みや他施設との差別化を図っていく。 ○教育利用について、県観光連盟や男鹿市DMO等と連携し、県外からの誘致活動を行っていることから、この取組を継続するとともに、ニーズを的確に把握しつつ、男鹿半島全域の魅力と当館の特徴を生かしたプログラムの提案を行っていく。 男鹿市やDMO、関連企業及び宿泊施設等との連携を図り、地域一体となり誘客促進に努めていく。	展示物の充実や水族館ならではのイベントの企画等を促していくことに加え、教育利用の促進を目的に多目的ホールやキッズスペース等を整備していることから、引き続き、法人と連携して利用客の増加や教育旅行等の団体客の獲得に取り組んでいく。 男鹿市やDMO、関連企業及び周辺近隣施設等との連携を促し、男鹿半島地域の観光の活性化を図っていく。